

平成22年度 学校評価結果報告書

H23. 3. 18

小松市立国府中学校

	自己評価				達成状況	学校関係者評価	次年度の方向（改善計画等）
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取り組み状況		学校関係者評価者による意見	
① 組織的な学校運営	（組織的な学校運営の体制） 運営委員会をはじめ校内各分掌の会合が適切に持たれ、建設的な話し合いのもと組織的・機能的に学校運営がなされる。	【努力指標】 運営委員会及び研究推進委員会の開催を中心に、適切な方向性を示しながら学校運営が進められる。	運営委員会と研究推進委員会の開催回数の合計が A：16回以上 B：14回以上 C：12回以上 D：12回未満	・年間の運営委員会と研究推進委員会の開催回数は合計14回であった。研究発表会へ向けて全職員が組織的に取り組めた。一方、学校行事開催について、事前に運営委員会で検討を深めることができなかった。教職員アンケートで、組織的・機能的と感じた割合は89%。	B	・会の回数が組織的な学校運営の一つのよりどころとなるというは理解するが、やはり効率的な会議を追求することが大切である。近隣の学校の状況もつきみながら客観的な評価が必要なのではないか。 ・生徒指導部会等の定期開催で具体的にどんな成果、効果が表れてきているのか教えていただきたい。 ・勸進帳公演にあたり特定の子に負担がかからないようお願いします。	・毎朝の打ち合わせは継続していく。 ・運営委員会は年間の要所所での開催を事前に設定しておき、月行事予定に入れるようにする。 ・今年度、スクールカウンセラーの来校に合わせ毎週火曜日に生徒指導部会を定期的に開催するようにした。学年の枠を越えて情報の共有ができ、生徒全体を見ることができた。次年度も定例開催を継続していく。 ・次年度、勸進帳公演を控えているので、その対応も合わせて行っていく。 ・学校研究テーマは今年度の成果を踏襲し、次年度も継続して研究実践していく方向である。授業づくりを中心に特別活動でもこれまでの積み重ねを生かし、学校の活性化へとつなげたい。 ・行事日程が多く、危機管理訓練を3回行うことは困難であるが、火災、不審者侵入、地震の3つをそれぞれ適切な時期を検討して実施したい。その際、いずれも早期に計画を立て、教員に対する事前講習の実施を行えるようにしたい。 ・自転車走行時の歩行者との接触や併走している等の通報があった。いずれも大事には至っていないが、実情に応じた対応を随時行う必要がある。また、入学時にのみ行っている交通安全指導（集会）を全学年対象に1学期の早期に行いたい。
	（職員の研修・研鑽） 講師を招聘し、一人一研究授業を実施し、校内研修会をする。ワークショップ型の研修会でお互いの実践の成果を共有化し、校内研究を充実させる。	【成果指標】 一人一回の研究授業を設定し、校内研修会の活性化を図り、教職員の参画意識の向上を図る。	一人一回の研究授業の実施と校内研修会の有効性を評価している教職員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	・学校研究の総括的評価の職員の回答は92%が学習内容に応じ、学び合いの授業づくりができた。また、67%が生徒主体の授業の仕掛けづくりに適時配慮して実践している。主体的な生徒会活動に取り組めたのは92%、学校行事で生徒が主体的に取り組む充実感があると答えたのは85%となった。	A	・本校が開催した教育研究発表は大きな成果があったと思います。多忙な中、運営委員会や職員研修は大変であると思いますが、特定の職員に業務が集中することなく互いの助け合いの中、今後も適正な学校運営をお願いします。 ・研究授業などを行い、授業づくりを工夫されているようで、子どもたちの学びにプラスになるよう今後も続けていってほしいと思う。 ・計画性を持って取り組んでいる状況が見られ、これからも活気のある学校づくりをお願いしたい。	
	（安心して学べる教育環境） 総合的な学校安全計画が教職員に周知されるとともに、定期的な危機管理訓練等を行うことを通じて、災害・事故等の発生時に備えた対処・連絡体制をとることができる。	【成果指標】 生徒及び教職員の危機管理訓練が定期的かつ計画的に行われ、適切な対処・連絡体制がとれる。	危機管理訓練が定期的に行われ、適切な対応がとれたと感じている教職員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	・2学期は、予定していた不審者侵入に対する訓練を変更して、地震を想定した避難訓練を行った。落下物などの障害を設けて、避難経路を限定させる工夫も行っている。生徒の緊張感がやや欠ける場面もあったが、新しい試みであり教員にとってもよい訓練となった。7月と12月のアンケートで、同項目での比較では、教職員アンケートでは95%に微減している。また、生徒および保護者へのアンケートでは、7月と12月の数値にほとんど変化は無い。	A	・本年度は研究発表会に向けて全職員が組織的に取り組んでおられ素晴らしい。 ・下校時のマナーが良くないとの声はまだ聞こえてくる。特にAコープ方面に向かう時に、列になって歩いているようである ・登下校時のマナー、安全確保を年間を通して指導していただきたい。	
② 確かな学力の育成	（生徒の主体的な学びの追求） 生徒の主体的な学びのある授業づくりを追求するために、言語活動の充実を踏まえた思考力・判断力・表現力を育成する場を設定した授業改善案を策定し、学び合いのある授業づくりに取り組んでいる。	【成果指標】 生徒の主体的な学びの追求のために言語活動を組み入れた授業計画と学び合いのある授業構成を考えた授業づくりに取り組めた。	目指す授業づくりへの授業改善や指導力向上への取り組みを進めている教職員の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	・12月のアンケート結果でも、教職員の授業づくりに対する意欲は高く、対応する3項目はいずれも7月と同様に90%以上であり、積極的に取り組んでいると考えられる。	A	・「授業はわかりやすく楽しい」と感じられるのが一番だと思うので、日々授業内容の工夫や研究を重ねていってほしいと思う。 ・保護者アンケートでは「子供はわかりやすい授業が多いと言っている。」で50%を切っている。生徒の回答との差があり信頼性がないのなら、保護者アンケートから外して良いのでは。 ・家庭での学習時間が1時間程度では物足りない気がする。短時間でも効果的な「家庭学習のコツ」について、きめ細やかな指導をお願いします。 ・平日の学習時間の少なさが、この項生徒全体の学力を下げている様に思える。学習の習慣を身に付けられるよう更に指導していただきたい。 ・自主勉の取り組みも定着しているようで嬉しく思う。 ・家庭学習に対する取り組みについて、親に対する働きかけを検討してはどうか。 ・「自ら学ぼうとする」 「授業で学習したことを生活に結びつけることができる」が3～5ポイント減少した。指導は学級ごとや教科ごとに行っていたので、担当ごとに取り組む姿勢が異なっていた。全校的に統一目標を設定したり、具体例を元にした各教科の取り組み例を提示したりして、推進体制を整えて指導していきたい。	
	（家庭学習の習慣化） 各教科で出される宿題の実態を踏まえ、消化可能な課題を学年ごとに継続的に与える。自主学習の意義を説き、上手にまとめられた生徒のノートを提示し、生徒の学習意欲向上と習慣化を図る。	【成果指標】 毎日家庭学習に取り組むことができ、宿題や自主勉強ノートの提出がしっかりできる。	毎日家庭で自主学習ノートに取り組む生徒の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	・12月1ヶ月分の全校生徒の自主学習ノート提出率を調査した結果、91%の生徒が提出していた。学級によってはページ数も記録しているところもある。	B	・「自ら学ぼうとする」 「授業で学習したことを生活に結びつけることができる」が3～5ポイント減少した。指導は学級ごとや教科ごとに行っていたので、担当ごとに取り組む姿勢が異なっていた。全校的に統一目標を設定したり、具体例を元にした各教科の取り組み例を提示したりして、推進体制を整えて指導していきたい。	
	（学力向上プランの推進） 確かな学力の定着、学級経営の充実、家庭での学習習慣の定着などが図られるようし、目指す生徒像への達成を目指す。	【成果指標】 学力向上プランであげた「目指す生徒像」への数値目標を達成することができる。	数値目標を示した4項目のうち達成できた数が A：4項目 B：3項目 C：2項目 D：1項目以下	・自ら学ぼうとする生徒の割合74%（目標80%）、自分の思いや考えを相手に伝えられるようになったのは割合79%（80%）、授業で学習したことを生活に結びつけることができる割合は50%（60%）、平日の家庭学習時間が1時間以上の割合51%（61%）。	D	・「自ら学ぼうとする」 「授業で学習したことを生活に結びつけることができる」が3～5ポイント減少した。指導は学級ごとや教科ごとに行っていたので、担当ごとに取り組む姿勢が異なっていた。全校的に統一目標を設定したり、具体例を元にした各教科の取り組み例を提示したりして、推進体制を整えて指導していきたい。	

③豊かな心の育成	<p>〈質の高い集団づくり〉 学級を基盤に、それぞれが自己有用感を持ち、互いに学び合い、認め合い、高め合う質の高い集団づくりに取り組む。</p>	<p>【満足度指標】 学年に応じた自覚と責任を持ち、集団の一員としての行動がとれる生徒。</p>	<p>集団の一員としての自覚を持ち、質の高い集団づくりのために責任を果たすことができたと感じる生徒の割合が</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>・生徒アンケートでは、学校行事や学年行事の中で、自分の役割を充分果たすことができ、充実感を感じることができた生徒の割合は80%であった。(1年84%・2年77%・3年81%) 保護者アンケートでも、87%の保護者が我が子は行事に意欲的に取り組んでいると考えていた。(1年91%・2年81%・3年89%)</p>	<p>A</p> <p>・2学期は生徒が中心となる行事が、運動会、文化祭と続きいろいろな場面で責任ある仕事を与えられて充実感が味わえたのではないと思う。子2人の行事に参加させていただいたが、楽しく一日を過ごすことができた。生徒たちも気軽にあいさつしてくれ、雰囲気の良い校内でした。</p> <p>・充実した道徳教育の実践が行われている。また主体的に生徒会活動が推進されている。小学校でも人権教育の推進から道徳教育の充実に取り組み、自己肯定感やよりよい人間関係を育む取り組みをしてきたが、なかなか児童の心の中には定着はしないという課題も出てきている。が9年間を通して指導を積み重ねながら、人間関係づくりや生き方などについて考える生徒も増えてくると思う。</p> <p>・各委員会では、仲間の協力と連帯感、事業に対する達成感が実感できるよう、今後も生徒会、教師で評価し合う体制が必要だと思います。良い成果は、大いに讃えることで、やる気と達成感が生まれると思います。</p>	<p>・文化祭は、一人一役を基本にしているので、生徒の充実感が高かったようである。また、教師がすぐに手や口を出すのではなく、生徒が主体的に動く仕掛けを作ったり、待つ姿勢を大切にしたら結果が数値の向上につながっている。次年度も、時間と手間がかかる面はあるが、主体的に行事等に取り組む生徒を育てていきたい。</p> <p>教師アンケートと生徒アンケートの結果に差があることが気になる。教師側は毎週の道徳の時間を資料選択や分析を行い、授業実践を重ねる生徒の道徳的心情の向上に努めているととらえている一方で、生徒は自分自身の生き方や人間関係作りあまり実感としてとらえられていない。道徳や学活だけでなく、教科や行事など様々な教育活動と関連させた活動を意識する必要がある。</p> <p>・役員会や各専門委員会、生徒は「一大事業」を考えながら主体的にアイデアを出したり運営したりしている。その気持ちをもって、具体的に行事などを経験し、多くの充実感や達成感を味わうことができている。さらに生徒たちが主体的に自分たちの行事を立案し成功させるという意識を高く持ち行動できるように指導を工夫していく。</p> <p>・個々の生徒とのつながりを大切にした学級づくりを、今後も継続した取り組みで実践していきたい。また、学校行事などを通しては、生徒達は協力し合ったり、達成感を味わったりして人間関係を深め、成長していく。このような体験を大切にしたい取り組みの中で信頼関係の構築を目指していきたい。</p>
	<p>〈道徳教育の実践〉 道徳の時間の内容を工夫・充実させ、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心・判断力・実践力を高めていく</p>	<p>【成果指標】 計画的に実践を重ね、積極的な授業研究に努めることで、生徒の道徳的心情の高まりを促す</p>	<p>人間関係作りや生き方等について深く考えるようになった生徒の割合が</p> <p>A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>教師アンケートでは、道徳の時間を充実させるために資料選択や分析を行い、指導の工夫を通して道徳的心情の向上に努めたという教師の割合が93%と高まっている。しかし一方で、生徒アンケートの結果では、人間関係作りや生き方などについて考えるようになったと答える生徒の割合が、61%と低い。</p>	<p>B</p> <p>・保護者の評価は全体的に前回結果より下がっているが、生徒の達成度は上がっている。今後、生徒が学校行事や諸活動へさらに意欲的に取り組むことを期待したい。</p> <p>・家庭と教師が生徒個人の変化に対して直視する機会を持って欲しい。2学期の生徒アンケートで、「先生方はいじめや問題行動を見逃さずに対応」の数値が低く特に1年生が低いのが気がかりである。何か見落とししたものがないか、今一度、担任以外の目で再確認して頂きたい。</p>	
	<p>〈主体的な生徒会活動の推進〉 役員会・各専門委員会がそれぞれ生徒会の目標に取り組み、一大事業を考案し、主体的に責任を持って行動したり、協力して事業をやり遂げたりできるようにする。</p>	<p>【満足度指標】 委員会に所属するすべての生徒が委員会活動に積極的に取り組むことができる。</p>	<p>委員会活動に積極的に取り組めたと感じる生徒の割合が</p> <p>A：90%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：50%未満</p>	<p>・1学期を終えた段階での評価に比べて、2学期を終えた段階での評価の方が高くなっている。生徒の平均値としては、73%ということで、積極的に参加できている生徒が増えていたという結果であった。2学期は特に、研究発表に向けての活動や、運動会や文化祭など、生徒会が関わる大きな行事が多かったことが考えられる。</p>	<p>B</p> <p>・先生方はいじめや問題行動を見逃さずに対応してくれていると答えた生徒は44%。生徒の間違った行動はあやふやにせず、保護者と連絡を取りながらきちんと指導していると答えた職員は94%。先生方はいじめや生徒指導上の問題に対してきちんと対応していると答えた保護者は67%。生徒・職員・保護者の捉えの差をどう見るかが課題である。悩みや心配事を相談できる人がいると答えた生徒は68%となった。さらに相談しやすい環境を工夫していく必要がある。</p>	
<p>〈信頼関係の構築〉 Q-Uテスト分析、「我が子の良いところ」、ふれあい週間等の面談の活用、特別に支援が必要な生徒への配慮など、積極的な生徒理解と支援に努める。</p>	<p>【努力指標】 年2回のQ-U実施と分析や面談、校内研修会での情報交換を通じて生徒との関係づくりや支援に努める。</p>	<p>面談や家庭訪問、日頃の声かけなどを通して生徒理解に努め、生徒と良好な関係が築けていると感じている教職員の割合が</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>・先生方はいじめや問題行動を見逃さずに対応してくれていると答えた生徒は44%。生徒の間違った行動はあやふやにせず、保護者と連絡を取りながらきちんと指導していると答えた職員は94%。先生方はいじめや生徒指導上の問題に対してきちんと対応していると答えた保護者は67%。生徒・職員・保護者の捉えの差をどう見るかが課題である。悩みや心配事を相談できる人がいると答えた生徒は68%となった。さらに相談しやすい環境を工夫していく必要がある。</p>	<p>B</p> <p>・2年生は40人学級だが、少人数できめ細かな対応ができるに越したことはないが特にマイナス面は感じられない。人間関係で行き詰まったとき人数が多いので救われたということもある。</p> <p>・先生のアンケートで「生徒はよく挨拶ができる。」の数値が夏より下がりましたが、挨拶が減る原因は？どう理解されていますか？勿論、家庭でも地域の方や先生に挨拶するよう注意していきます。</p>		
④健やかな体の育成	<p>〈健全な心身の成長〉 保健行事や授業等を通して、生徒が自分の健康問題に気づき、心身の健康に対する自己管理能力を向上できるように努める。</p>	<p>【成果指標】 生徒が自分の健康に関心を持ち、疾病の予防や治療に努めようとする。</p>	<p>疾病の治療率が</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>A</p> <p>・これからも治療率の確認をする体制をとり、担任、家庭、部活顧問等と連携しながら、迅速な対応に努めて欲しいです。</p> <p>・疾病の治療率は夏休み利用や保護者への働きかけが成果につながっている。また、生徒自身の健康への心がけにもつながっている。</p>	<p>・むし歯予防に関しては、今後も学校歯科医や歯科衛生士の協力を得て、働きかけを大切にしていきたい。</p> <p>・治療に関しては、生徒、保護者の両方に地道に働きかけていきたい。また、仮入学の機会を利用し、新入生には入学前の検査や治療を勧めたい。</p> <p>・文化部および無所属の生徒の割合が高くなり(28%)、日頃運動に携わらない生徒が増えてきた。本校の体育授業は規律が守られ、生徒は意欲的に参加している。そのため、運動量も確保でき一定の達成感を味わうことが出来たといえる。どの生徒も意欲的に参加する授業を当然の姿として徹底していきたい。</p> <p>・授業の始めに必ず柔軟運動と補強トレーニングを行い、課題の克服に努めてきた。生徒の中にもその必要性が浸透してきており、習慣的な取組として定着させたい。</p>	
	<p>〈体力アッププランの実践〉 新体力テストの結果を各自が踏まえ、課題の克服に向けて努力する。授業最初のランニングやトレーニングを積極的に取り入れ、基礎体力の向上を図る。</p>	<p>【満足度指標】 個々に応じた目標を持って意欲的に参加し、技能向上を目指す。</p>	<p>意欲的に参加し、楽しいと感じる生徒の割合が</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>・生徒アンケートでは意欲的に活動できて楽しい87%、真剣に取り組んでいる93%とそれぞれ7月のデータよりも向上している。</p>	<p>A</p> <p>・運動会ではみんな元気に参加していても楽しめた。</p> <p>・プールの授業の回数が今年度は少なかったように思われる。6、7回は確保してほしい。</p>	
⑤家庭・地域との連携	<p>〈家庭との連携〉 信頼感に基づく保護者との良好な関係を基盤に、学校・保護者・地域の連携をさらに深めていく。</p>	<p>【満足度指標】 教職員は子どもについての相談に親身に応じ、学校全体として保護者や地域の願いに応えようと努力している。</p>	<p>関連した保護者アンケートの結果が総合して</p> <p>A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満</p>	<p>・保護者アンケートで、教育方針の理解81%、適切に相談69%、問題にきちんと対応67%。平均は72%であった。</p>	<p>D</p> <p>・教職員と保護者での評価の差を縮めるためにも、良い関係づくり適切な対応など必要になる。</p> <p>・こまめに便りを頂いているので学校がよくわかる。緊急メール配信での連絡はともよかった。担任の先生も細かく子どもたちを見守ってくれていると思う。</p> <p>・なんかいつもと違う、ちょっとした事が大きな問題に成る事が多い年頃、家庭では勿論の事、学校でも「おかしい」と感じたら迅速に対応してください。</p> <p>・人材等の活用では地域の方々と学校双方がメリットのある形で行うことが大切である。双方のメリットになるよう学校側としても十分に考えていきたい。</p> <p>・2年続けてスキー教室の講師として参加したが、年々保護者の参加が少なくなっているように思います。改善するのか或いは地域の講師にお願いする形で継続が良いのかをご検討下さい。</p> <p>・HPでは校長先生のページの更新が適切に行われていた。更に、保護者や地域の方にも見てもらえるHPづくりに工夫して頂きたいです。</p> <p>・今年度実施の緊急配信メールは、適切に運用されていました。</p> <p>・HPの更新回数が月2回以上は適正な回数として判断されているのか。</p>	<p>・学校の経営方針・評価計画等を4月当初に示すとともにホームページに掲載されていることを周知していく。</p> <p>・生徒理解、問題発生時の対応や保護者からの相談について校内研修会の機会を設け、教職員全体としてさらに研鑽を深め、生徒や保護者の内面を十分に慮った対応がとれるようにしていく。</p> <p>・地域の教育資源や人材を教育活動で活用していく際、地域の方々と学校の双方がメリットのある形で行うことが大切である。</p> <p>・8月時の課題と方策で掲げた「HPをもっと閲覧してもらおう工夫」が現在まだできていない。保護者へのHPの利用の呼びかけと共に、学校からのお知らせ等の配布物をPDFで掲載し、閲覧できるように加工したい。</p>
	<p>〈地域人材等教育資源の活用〉 教育力の高い地域の特性を生かし、教育活動の中に地域の人材や教育資源の活用を図っていく。</p>	<p>【満足度指標】 授業や教材開発に、地域の有用な人材や教育資源の積極的な活用を進める。</p>	<p>地域の人材や教育資源を活用した教職員の割合が</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>・教職員アンケートで、自分の関連する領域の中で、地域人材や教育資源の活用を意識している教職員は74%であった。教科では、3年家庭科で舟見ヶ丘保育園での保育実習・1年社会科で河田山古墳資料館から資料をいただくなど地域の教育資源の活用を図った。</p>	<p>B</p>	
	<p>〈情報公開〉 学校理解のため、積極的な情報公開に努め、信頼される学校作りを目指す。</p>	<p>【努力指標】 ホームページを毎月更新し、学校評価に関わる情報を積極的に掲載する。</p>	<p>ホームページ更新頻度が</p> <p>A：1ヶ月に2回以上 B：2ヶ月に3回以上 C：1ヶ月に1回以上 D：1ヶ月に1回未満</p>	<p>・月予定等の定期的な更新、校長便りや教頭徒然草の不定期な掲載や学校評価の結果の掲載などを行い、達成できている。また、7月、12月のアンケートの情報公開に関する項目「学年便りやホームページなどで行事や生徒のようすをよく知らせている」では、教職員の評価は100%、95%。保護者の評価は84%、81%であり、微減であるが高評価となっている。</p>	<p>A</p>	